



歯

今までのニュースレターにも、ワンちゃんネコちゃんの口臭の原因は歯石である事はお話してきました。ワンちゃんネコちゃんの高齢化に伴い、歯石による歯肉炎、歯槽膿漏は増えています。歯石が付着してしまうと、簡単には取ることができず、麻酔をかけての処置になります。

当院での歯石除去処置までの流れ

<歯石除去は、要予約となっております>

- 1. 来院** 朝9:00~11:00までに来院。
- 2. 診察** 年齢に応じて、麻酔をかける為の術前検査として血液検査が必要。
- 3. 麻酔** ワンちゃんネコちゃんは、自主的に口を開けてくれないので、全身麻酔が必要。
- 4. 歯石除去** スケーリング



5. 研磨

ポリッシング

スケーリングを行った後の歯面は細かく不整な凹凸がある。それを研磨することをポリッシングという。スケーリングのみで終了すると、歯面が粗く歯石の再付着がしやすい。マイクロモーターという電動のモーターにブラシを付け、研磨ペースト(フッ素入り)をつけてポリッシングを行う。後に、余分なペーストを洗い流す。



6. 覚醒

麻酔からさめるのを待つ。

当院では、麻酔をかけたワンちゃんネコちゃんに関しては、基本的に一泊お預かりしています。自宅に帰ってからは、ピカピカになった歯を維持するために、歯みがきをがんばってみましょう。



- ①口の周りをなでたりして、触られることに慣れさせる。
- ②指を口の中に入れてみる。最初のうちは、指を入れただけですぐに出すように短い時間から始める。この時、すすぐ必要のないしこう性の良い動物用ハミガキ粉を指につけてなめさせても良い。
- ③口の中に手が入る事に慣れたら、指にガーゼ、あるいは歯みがき用の指サックをつけて、歯の表面を軽くこする。この時に、ハミガキ粉をつけても良い。はじめは前歯から行い、少しずつ奥に進む。
- ④ガーゼ、指サックに慣れたら、歯ブラシへ。しかし、いきなり歯ブラシで磨くのは無理。まずは歯ブラシの匂いをかがせたり、ハミガキ粉をつけてなめさせたりして、歯ブラシに慣れさせる。慣れてきたら口の中に入れていく。口の中に入れてさせてくれたらほめる。
- ⑤歯ブラシに慣れたら少しずつ歯を磨いてみる。前歯を行き、少しずつ奥歯へ。外側が磨けるようになったら、口を開けさせて内側も行。



同じ日に歯石除去を行ったワンちゃんの1年後



1年間歯みがきをしなかったワンちゃん



1年間ほぼ毎日歯みがきをしたワンちゃん



紙面上に書くと容易に思いますが、実際行うと大変な事です。まずは1週間に1、2回でもOKです。慣れてきたら間隔を短くして、毎日出来るようになるといいですね。

当院では11月・12月・1月を「歯みがき月間」として歯のケアに力を入れたいと思います。この「歯みがき月間」に歯石除去処置を行ったワンちゃんネコちゃんには、歯ブラシを行うきっかけになればと思います「歯みがきセット(歯ブラシ・指サック・ハミガキ粉)」をお渡ししたいと思います。

「歯は命」というキャッチフレーズがありましたが、ワンちゃんネコちゃんが一生自分の歯で食事が出来るよう、がんばっていきましょう。

まいちゃん、のんちゃん、ゆうちゃんの

ポイント



アドバイス

今回のテーマは、飼い主さんからよく相談される「うれしょん」と「拾い食い」についてです。

うれしょん

興 畜状態で尿失禁の場合は、ワンちゃんが意識せずに排泄しているため、叱っても効果はありません。仔犬の時期にはうれしょんが見られやすく、膀胱の括約筋が発達しなためだといわれています。また、小さい時に母犬が仔犬の排泄をなめて促す習性の名残で母犬のような対象とを感じる人に「まだ保護を必要とする弱い立場にいる」という気持ちの表れだという説もあります。多くの場合、成長するに従い自然に治ります。しかし、内向的でシャイな性格のワンちゃんなどでは成犬になってもなかなか治まらないことがあります。例外として

- 生まれつき、あるいは腫瘍などの病気で泌尿器系の構造に欠陥がある場合
- ホルモンバランス異常
- 尿道括約筋がゆるんで尿道を閉じられない

などの理由も考えられます。一番の解決策は落ち着かせることです。うれしょんをしてしまった時、ビックリして大きな声を上げて騒いでしまったり、大げさに「あーあ!またオシッコして!!」などと反応してしまうことで、ワンちゃんがさらに興奮してしまうこともあります。オスワリやフセで落ち着かせたり、飼い主さんが平静を保つことで日常的にリラックスした状態を継続できるようにしてあげましょう。



拾い食い

ワンちゃんは人より地面に近く嗅覚が優れているため、飼い主さんが気づいた時には何かを口に入れた後ということが多くはないでしょうか? そしてあわてて取り出そうとすると、ワンちゃんも急いで飲み込んでしまうというのがよくある失敗です。しかし、これが繰り返されると、「いいものを見つけたら早く食べないと横取りされる」と覚えてしまい、常に何かないかと必死に探し、見つければ急いで飲み込むという行動が強化されていくのです。さらにエスカレートすると、食べ物の入っていた袋や入れ物など、少しでも食べ物の匂いが残るものに反応し、本来口にすべきではないものでもそれを認識する前にとりあえず食べるという状況が問題を悪化させてしまうのです。

食 食べ物以外の物を食べてしまうのは、飼い主さんの注意を引くため以外に食事量の不足、栄養欠乏、寄生虫や胃腸の病気なども考えられます。ワンちゃんが飼い主さんをリーダーと見なしていれば、決してリーダーの許可を得ずにものを食べることはありません。基本的に飼い主さんが「よし」というまで食べてはいけないことを教えれば、かなり防ぐことができます。これはほんの一例ですが、わざとおやつやフードを床に落とし、食べようとしたら「ノー」や「ダメ」で静止させ、指示に従ったら別のごほうびと落とした物を拾って与えます。そうすることで落ちていた物を急いで食べなくても、飼い主さんがちゃんとくれるのだと学びます。目先の落ちていた物より「ご主人の言うことを聞いたらほめられたし、落ちていたフードにおやつまでもらえて得した」とわかれば、勝手に食べたりすることはなくなっていきます。食べさせないようにするのは一番ですが、全てを防ぐことは難しいので、もし口に入ったのがわかったらすぐに取り出して下さい。大騒ぎするとあわてて飲み込んでしまうので落ち着いて対応します。取り出せたらほめてあげることがとても大切です。

